

臨床レ線學

外科的疾患ノレ線診斷トソノ手術所見(1)

京都帝國大學醫學部外科學教室

講師 醫學博士 藤 浪 修 一

手術者自ラガレ線検査ニ參與シテ居ルト、豫メア―ダラウカ、コウダラウカ、ト考ヘテ居タ共等レ線所見ノ意義ガ手術ニヨツテ忽チニ解決シ得ラレルシ、又時ニハ成程斯カル手術所見ガアルノデ、アノ様ナレ線所見ガアツタノデアルカト痛切ニ感ズルコトモアル。

今此等ノレ線寫眞ヲ供覽シ、同時ニソノ診斷ノ過程並ビニ手術所見ヲアリノマ、記述シテユケバ、今後ソノ何者カ、診斷學上ニ役立つコトモアラウト考ヘル次第デアル。

第1例。廻盲部癌？ 結腸周圍炎性腫瘤？ 蟲様突起炎性腫瘤！

加○小○，41歳，♀。農業（昭和14年6月9日入院）

入院ノ1週間前（6月2日）軽度ノ熱感ト共ニ、腹部全汎ニ互ル鈍痛ガアツタ。患者ハ幼時ヨリ蛔蟲症ニ罹リ、時々腹痛ヲ來シタガ、ソノ都度驅蟲藥ヲ服用シ、蛔蟲ノ排出ト共ニ腹痛ハ消失スルノガ常デアツタ。ソレデ今回蛔蟲ノタメト考ヘテ驅蟲藥ヲ服用シタトコロ、蛔蟲ハ匹排出サレタガ、腹痛ハ消失セズ、次第ニ痛ミハ疝痛様トナツテ廻盲部ニ局限スルニ至ツタ。

6月8日（入院ノ前日）自ラ廻盲部ニ腫瘤ノアルノニ氣付イタ。便通ハ最近1日2行、黑色ヲ帶ブト。

患者ハ小柄ナ稍々瘦セタ婦人デアツテ、胸部、肢部等ニハ別狀ナシ。

腹部ハ膨滿モ凹陷モセズ、唯ダ下腹部ニ軽度ノ蠕動不穩ヲ認め得ラル。廻盲部ニハ1ツノ雞卵大彈性硬ノ腫瘤ヲ觸レル。腫瘤ニハ極ク軽度ノ壓痛ガアリ、ソノ表面ハ比較的平滑デ丸ミヲ帶ビ、上方及ビ内方ニ向ツテノ境界ハ鮮銳デアルガ、下方及ビ外方ニ向ツテハ稍々不明瞭。移動性ハ缺如スル。腸雜音ハ亢進シテ居ルガ、響鳴性デハナイ。腹水ハ證明サレヌ。

入院後ノ體温ハ $37.2\sim 37.5^{\circ}\text{C}$ ヲ最高トシ、白血球數ハ6400。即チ病歴カラ言ツテモ、一般ノ臨床所見カラ考ヘテモ此ノ疾患ノ本態ガ『急性炎症』ニ由來シタモノデアルトハ思ヘナイ。

患者ノ年齢トカ、狹窄症狀ヲ主徴トスルコト及ビ彈性硬ノ腫瘤ガ存在スルコト等ヨリ、『廻盲部癌』ト先ヅ診斷サレタ。

レ線検査

經肛門造影劑注腸法ヲ行ツタ。造影劑充盈像デハ、S狀結腸ガ廻盲部ヲ覆ヒ、而カモ緊ニ造影劑ヲ滿タシテ居ルノデ、コレヲ壓排シテ廻盲部ノ明確ナル所見ヲ認ムルコトハ出來ナカツタ。

ソコデ結腸内ノ造影劑ヲ排出サセテ粘膜皺襞像ヲ検査シタ（第1圖）。

腫瘤ハ廻腸末端ヲ中心ニソノ上下ニ跨ガリ、而カモ點線デ示サレテ居ル如ク上行結腸ノ内方ニ主在シテ居リ、而カモ腫瘤ニ接シタ結腸ニハ粘膜皺襞ガ保全サレテ居リ、何處ニモ腫瘍ノ粘膜破壊ニヨル所謂 malignes Relief ハ現ハレテ居ラナイ。

又癌ノ好發部位タル廻盲瓣(↑ K)ハ稍々哆開シテ居ルガ、ソノ形態ハ正常デアアル。又廻腸末端モ縦走セル粘膜皺襞像ヲ現ハシテ居ル。

即チ粘膜ハ完全ニ保全サレテ居ルノデ、此ノ腫瘤ハ粘膜カラ發生シテ之ヲ破壊シナガラ増大スルコロノ癌デハナイコトガ、此ノ粘膜皺襞像ダケデ判ル。

次ニ肛門カラ空氣ヲ送入シテ、空氣ガ廻腸末端ニマデ進入シタトキ送氣ヲ止メ、患者ヲ左側臥位トシテ、背腹照射ヲ行ツテ得タノガ第2圖デアアル。

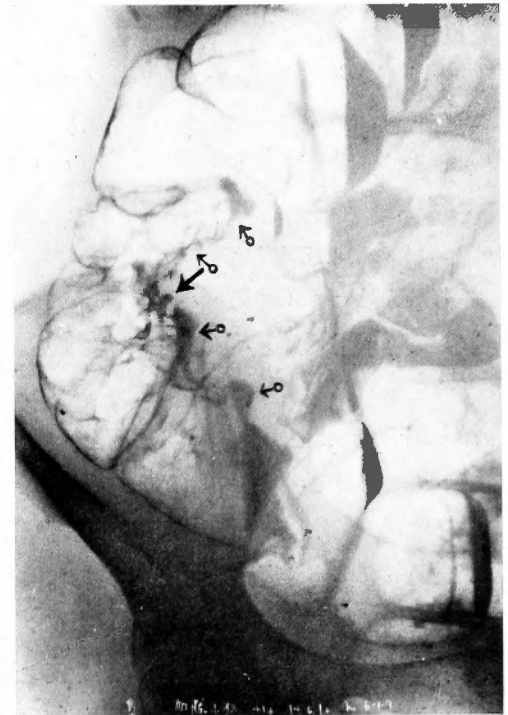
上行結腸ノ外側ハ完全ニ展開シテ正常ノ解剖學的形態(切除結腸内ニ「フオルマリン」水ヲ滿タン、ソノ内腔ヲ擴ゲタマ、固定シタル形態)ヲ示シテ居ルガ、ソノ内側、即チ腫瘤ニ接シテ居ルコロハ、擴大不充分デソノ周縁陰影ニハ凹凸像(δ…δ)ガ示サレテ居ル。此ノ凹凸像ハ粘膜皺襞ガ伸展セズニ、ソノ皺襞ノ山及ビ谷ニヨツテ形成サレタモノデアアル。此ノコトハ結腸壁ニ器質的病變ガアツテ伸展シ得ナイ状態ニナツテ居ルコトヲ意味スルモノデアアル。若シモ結腸ニ痙攣性收縮ガアリ、造影劑充盈像デハ宛カモ器質的狭窄ノ様ニ見ユルモノデモ、結腸内空氣送入ハ必ズソノ部ヲ擴大展開シテ所謂解剖學的形態ヲ示スモノデアアル。

即チ粘膜ガ保存サレテ居テ、而カモソノ結腸

第 1 圖



第 2 圖



壁=器質的變化ノアルコトハ、腫瘤ガ結腸外=在ツテ、ソコカラ腫瘤=接シテ居ル上行結腸ノ筋層マデガ侵害サレテ居ルコトヲ示シテ居ルノデアル。

然ラバ此ノ腫瘤ハ何者デアルカ。我々ハ曾ツテ結腸周圍炎性腫瘤5例ヲ經驗シタ。ソノ5例中3例=於テハ、ソノ腫瘤内=魚骨ヲ見出シ、他ノ2例ハ原因不明ノモノデアツタガ、此等ハ何レモ消化管ノ狭窄症狀及ビ腫瘤形成ヲ主徴トシ、臨床的ニハ『癌』ト先ヅ考ヘラレ、レ線學的検査=ヨツテ狭窄部=粘膜ノ保全サル、コトヲ證明シタノデアル。本例ノ症狀モ之ニヨク似テ居リ、而カモソノ腫瘤ハ前ノ5例ノ如ク丸ミヲ帶ビテ表面平滑デアル。ソレ故=癌デハナクシテ結腸周圍炎性腫瘤ト考ヘタノデアル。

手術所見

蟲様突起ハソノ根部=於テ上後方=屈折シテ盲腸後方=在リ、廻腸末端、ソノ腸間膜及ビ盲腸ハ蟲様突起ヲ包裹シテ、コレト結締織性=癒着シ、更ニ又後腹膜=硬ク肥厚シ、ソレラガ一塊トナツテ觸診シ得タルトコロノ腫瘤ヲ形成シテ居タノデアル。

腫瘤ト共=上行結腸及ビ廻盲部ヲ切除シテ檢スルニ、蟲様突起ノ周=ハ肉芽竈ガアリ、蟲様突起ハソノ先端=テ穿孔シ肉芽竈ト交通シ、更ニ此ノ肉芽竈ハ廻盲瓣ノ2.5糎上方ノ上行結腸=穿孔シテ居タノデアル。

此ノ結腸ヘノ穿孔ハ鉛筆芯大デアツテ、ソノ周圍粘膜ハ0.3糎程ノ幅=テ堤防狀=腫脹シテ居タ。即チ結腸周圍炎性腫瘤=ハ相異ナイガ、本例ハ蟲様突起炎=由來シタモノデアル。

本例ノレ線検査=際シテハ蟲様突起ハ現ハレテ居ラナカツタ(第1圖Apハ蟲様突起根部デアル)。然シ經肛門造影劑注腸検査デハ蟲様突起ガ正常デアツテモ、現出セヌ場合ガ多イ。又患者ノ病歴=ハ蟲様突起炎ヲ思ハシムル様ナ定型的ノ疼痛發作モナカツタノデ、此ノ蟲様突起ノ非現出=就テハ更ニ追求シナカツタ。

マタ結腸ヘノ穿孔ハ術前夢想モシナカツタノデアルガ、術後此ノ事實ヲ知ツテレ線寫眞ヲ再檢スルモ、粘膜皺襞像(第1圖)ニハソレラシイ所見モナイ。之ハ穿孔ガ小サク粘膜皺襞間=埋マツテ居タカラデアラウ。

空氣送込法=ヨルモノデハ(第2圖)、其ノ穿孔ト覺シキ所=不正形ノ小陰影斑(↓)ガアツテ、ソノ周圍=透明帶ガアル。恐ラク穿孔部デアラウガ、術前之ヲ穿孔ト認知スルコトハ不可能デアラウ。

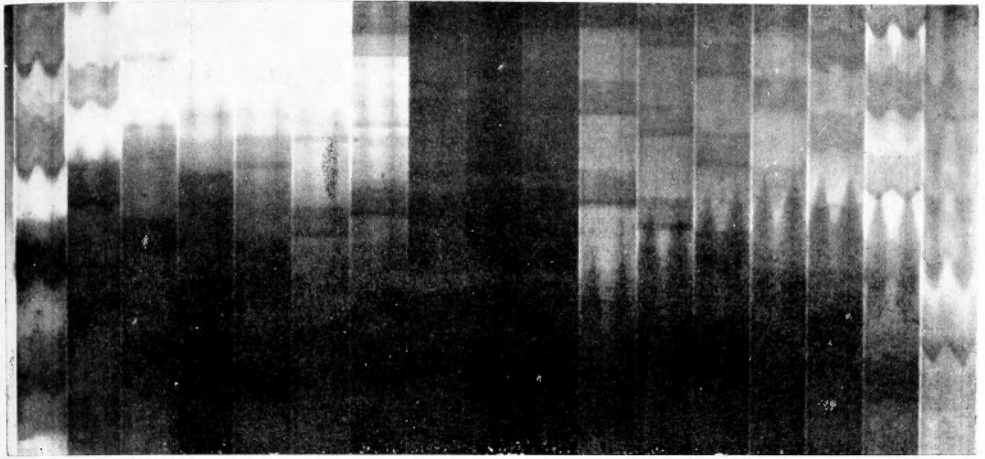
第2例：腹膜炎發症前時期ニ於ケル横隔膜運動障礙。

奥〇玄〇、24歳、守衛(昭和14年4月10日入院)

蟲様突起炎發作後26日日=手術施行。蟲様突起ハソノ中央部=テ穿孔シ居リ、1ケノ糞石ガ蟲様突起周圍ノ肉芽竈内=遊出シテ居タ。

ソレデ蟲様突起ノ切除後、肉芽竈=向ツテ排液法ヲ行ツタノデアルガ、術直後ヨリ日々38°C内外ノ弛緩熱ガアリ、手術創周圍ハ幾分硬ク湿润シテ來タ。創口カラノ分泌物ハ漿液性ナルモ日ト共=ソノ量ヲ増スヤウ=ナツテ來タガ、ソノ他=ハ腹壁筋緊張無ク抵抗モ無カツタ。即

第 3 圖



チ炎症ハ腹壁ニ局限シテ居ル様ニ考ヘラレタガ、術後8日目ニ、之ヲ確メルタメ横隔膜ノレ線
 キモグラフィ―ヲ行ツタ(第3圖)。

之ヲ實測シテ、正常横隔膜運動ノ平均値ト比較シテ見ルト次ノ表ノ通りデアル。

	左右呼氣 ノ別	振幅 (耗)	吸氣振幅 (耗)	呼氣 停止	曲線型
本例	右	5	3.8	0	I
	左	11.1	11.2	0	I
健康者 平均	右	15.3	13.5	0	I
	左	13.8	13.8	0	I

曲線型ハ第3型ヨリモ第1型ニ近イガ、横隔膜運動
 ハ左右トモニ、殊ニ右側ハ著ルシク障碍サレテ居ル。
 腹壁ノミニ炎症ガ局限シテ居レバ、横隔膜運動ハ障
 碍サレヌ筈デアル。又蟲様突起切除ノ如キ腹腔内手術
 操作ノ影響ハ術後8日間モ繼續セヌモノデアルカラ手

術侵襲ノ影響ニヨル横隔膜運動障碍トモ考ヘラレナイ。

胸腔内ニ病變ガアル場合、横隔膜運動障碍ヲ惹起スルガ、重篤ナ症状トナラス限り、反対側
 健側ノ横隔膜運動ハ却ツテ増強スルモノデアル。本例デハ胸部ニ病變ヲ見付ケ得ラヌカラ、
 胸部疾患ニヨル横隔膜運動障碍トモ言ヘヌ。

ソレデアルカラ曲線型ハ第1型ニ近イガ、ソノ運動障碍ハ腹腔内感染ニ由來スルモノト考ヘ
 ルノ他ハナイノデアル。然シ第8日目、即チレ線キモグラフィ―ヲ行ツタ當日ハ患者ノ一
 般状態良好デ體溫モ正常デアツタノデ、果シテ此ノレ線キモグラム¹ノ指摘スルガ如キ病變
 ハアルノデアラウカト疑念モ懐カレテ居ツタ。

然シレ線キモグラム¹ニヨリ、腹膜炎發症前時期ニアリト考ヘテ、經過ヲ觀察シタノデアル
 ガ、其後モ隔日ニ39°C内外ノ體溫上昇ガアリ、創口ヨリノ分泌物モ膿狀トナツテ來タガ、腹膜
 炎タルノ臨床所見ハ現ハレズニ10日間ヲ經過シタ。トコロガ術後18日目は至リ下腹部全般ニ腹
 壁緊張、ブルンベルグ氏徴候、壓痛等ノ腹膜炎ノ症状ガ現ハレ、術後22日目は再手術ヲ行ツタ。
 即チ膈ハ骨盤腔内及ビ下行結腸ニ沿ツテ左側腹部ニ臍ノ高サニ至ルマデ限局性ニ存在シテ居
 タノデアル。

猶ホ本例ニ就テ、尿中大腸菌ハ第1回手術前ニハ證明サレナカツタガ、術後19日目(第2回手

術 4 日前) = ハ 1 視野 = 10 ケ内外トナツテ居タ。又白血球數ハ第 1 回手術前 = ハ 6800 デアツタガ、術後 10 日目(「キモグラム」撮影翌々日) = ハ 7600, 術後 21 日目(第 2 回手術前日) = ハ 13800 トナツタ。

此等ノ検査モ經過ヲ追ツテ系統的ニ行ハレテ居ラナイノデ、批判ヲ充分ニナシ得ナイガ、兎ニ角、レ線「キモグラフィ」ニヨツテ未ダ腹膜炎ノ症狀ヲ發シテ居ラナイ時期(腹膜炎發症前時期)ニ、既ニ腹腔内ニ炎症ノ存在スルノガ判ツタノデアル。

第 3 例：乳癌ノ肺臟轉移

酒〇ふ〇, 51 歳, ♀, 裁縫職。

昭和 10 年 10 月(1 年 8 ケ月前)右側乳癌ノ診斷ノ下ニ乳房切斷及ヒ右側腋窩ノ清除ヲ受ケタ。ソレヨリ約 1 年ヲ經タ昭和 13 年 10 月, 胸部手術癍痕部ニ膿疱狀ノモノ生ジ, 後破レテ潰瘍トナリ, 昭和 14 年 3 月ニハ潰瘍ノ直徑 2 糎トナリ, ソノ周縁ハ堤防狀ニ高マリ, 乳癌ノ局所性再發デアルコトガ確カトナツタ。

ソレデ 4 月 19 日カラ 6 月 18 日ニ至ル 60 日間ニ 3600 ァノレ線照射治療ヲ行ツタガ、潰瘍周縁ノ堤防狀隆起ハ消失シ而カモ周ヨリ上皮新生ガ開始スルニ至ツタ。

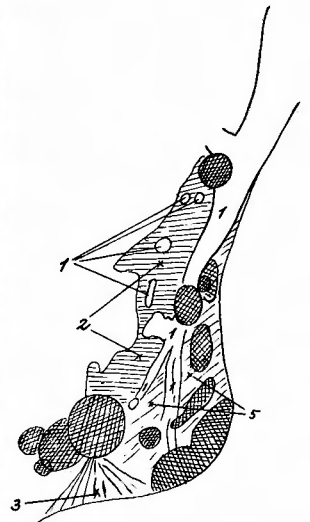
トコロガ患者ハ 6 月初メヨリ輕イ咳嗽, 粘液性ノ喀痰ガアリ, 疲レ易クナツタト訴フ。

直チニ乳癌ノ肺轉移ト考ヘタガ、打診、聽診上ニハ病的所見ガナイ。ソコデ診斷ヲ確實ナラシメル爲ニ撮影シタノガ第 4, 5 圖デアル。

第 4 圖



第 5 圖



右下肺野内側ノ断面像模型圖

- 1……気管枝
- 2……気管枝周囲浸潤
- 3……横隔膜腫瘤=向ツテノ索引
- ……腫瘤
- 5……肺擴張不全部

第4圖ハ立位背腹撮影デアリ、第5圖ハ腋窩線ニ於ケル肺臟ノレ線断面像デアル。

肺野ニ多數ノ大小不同ノ圓形ノ陰影斑ガ現ハレテ居ル。斯様ナ所見ヲ示スモノハ癌或ハ肉腫ノ肺ヘノ血行性轉移カ、或ハ肺ニ來タトコロノ轉移性多發性膿瘍カデアル。

轉移性多發性膿瘍ハ早晚軟化シ気管枝ニ穿孔シテ空洞ヲ形成スルモノデアルガ、レ線断面像(第5圖)デハソノ陰影斑ハ總テ均質陰影ニテ以テ實質性デアルコトヲ示シテ居ル。之ダケデモ膿瘍ニ非ザルコトハ確實デアルガ、ソノ他、此ノ患者ニハ膿瘍タルノ臨床的症候ハ全く缺如シテ居ル。

癌及ビ肉腫ノ血行性肺轉移像ハ兩者ニ於テ殆ンド同様ノ所見ヲ呈スルノデ、レ線像ダケデ鑑別スルコトハ不可能デアルト言ツテヨイ。

然シ本例デハ肉腫タルノ原發竈無ク、一方乳癌ト云フ肺ニ轉移ヲ來タシ易イ原發竈ガアルノデ、此ノ例ハ癌ノ肺臟轉移デアルコトハ確實デアル。

猶ホ断面像(第5圖並ビニソノ模型像)ヲ参考ニスレバ、第4圖ニ於ケル右下肺野内側ノ陰影ハ多數ノ腫瘤ノ存在ノタメ、及ビ腫瘤ガ気管枝ヲ壓シテ肺ノ擴張不全ヲ來シタ、メト理解シ得ル。マタ右側横隔膜ノ形態ガ不明瞭ナノハ、横隔膜ノ一部ガ腫瘤ノ牽引ニヨツテ舉上サレテ居ルカラデアル。